



SAYLOR
ADVERTISING,
INC.

セーラー広告株式会社

第71期 期末レポート

2021年4月1日～2022年3月31日



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、第71期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）を終了いたしましたので、その営業のご報告をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

第71期におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、度重なる緊急事態宣言の発出や解除により、経済活動の制限と緩和が繰り返される状況が続きました。また、サプライチェーンにおける供給懸念や資源価格の高騰のほか、ウクライナをめぐる国際情勢などもあり、先行きにつきましては不透明な状況となりました。広告業界におきましては、こうした経済状況により、イベントの開催中止や延期のほか、クライアントの広告活動の自粛などがありました。コロナ禍で加速したデジタル化を背景にインターネット広告が成長し、また新型コロナウイルス感染症の影響緩和もあって、2021年の広告業の売上高は前年比増となりました。このような状況の中、当社グループにおきましては、『マーケティングデザイン』を日々の営業活動の基本概念とし、コロナ禍で加速したデジタル領域の市場拡大に対応するため、デジタルマーケティング分野（インターネット広告、SNS、EC）の受注拡大に努め、お客さまの課題解決策にデジタル領域を加えたより具体的で高度化した提案活動に取り組んでまいりました。また、広告制作業務の内制化を推進し、個々の案件の利益率改善に注力してまいりました。その結果、デジタルマーケティング関連の受注がインターネット広告を中心に増加したほか、地元企業におきまして新しい取組や新しい事業の開始として新店舗や新展示場のオープンに関連した受注があり、当社グループの業績につきましては増収増益を達成することができました。

ポストコロナの世界、新しい21世紀の世界はすべての人々が豊かで幸福な時を過ごす社会でなければならないと思います。そして、当社グループが成すべきことは、すべての人々が豊かで幸福な時を享受できる社会を創って行くことだと考えます。今期は、当社の企業理念『お客さまの課題を提案活動によって解決し、地域の皆さまと共に豊かな文化を育て、社会をより楽しく、より美しく、より豊かにすること』にもう一度原点回帰し、当社グループの持つ大切に素晴らしい感性とIT技術の融合を図り、大切なお客さまと共に「新しい豊かな社会の創造」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

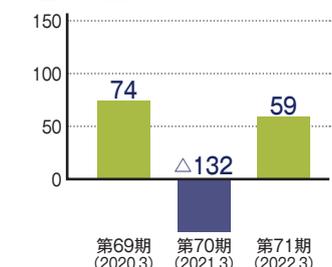
代表取締役社長 村上 義憲

■ 連結決算ハイライト

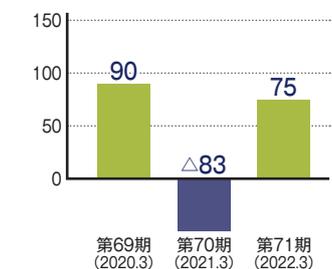
● 総売上高（単位：百万円）



● 営業利益（単位：百万円）



● 経常利益（単位：百万円）



● 総資産・純資産（単位：百万円）



連結財政状態の概況

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第70期	第71期
	2021年3月31日現在	2022年3月31日現在
資産の部		
流動資産	2,024	1,966
固定資産	2,162	2,004
有形固定資産	1,063	967
無形固定資産	25	20
投資その他の資産	1,073	1,016
資産合計	4,186	3,970
負債の部		
流動負債	1,551	1,625
固定負債	830	596
負債合計	2,381	2,222
純資産の部		
株主資本	1,780	1,740
資本金	294	294
資本剰余金	198	198
利益剰余金	1,602	1,561
自己株式	△314	△314
その他の包括利益累計額	23	7
純資産合計	1,804	1,748
負債・純資産合計	4,186	3,970

当連結会計年度末における総資産は3,970百万円となり、前連結会計年度末に比べ215百万円の減少となりました。資産の部では、短期借入の返済による現金及び預金の減少と、受取手形及び売掛金の増加を主な要因として、流動資産は前連結会計年度末に比べ57百万円減少し、1,966百万円となりました。また、収益性の低下が見られた一部の事業用資産に関する減損損失67百万円のほか、時価下落による投資有価証券の減少と、退任取締役の役員保険解約に伴う保険積立金の減少を主な要因として、固定資産は前連結会計年度末に比べ158百万円減少し、2,004百万円となりました。負債の部では、支払手形及び買掛金の増加と短期借入金の返済、ならびに、1年以内に返済予定である長期借入金および一年以内に償還予定である社債の固定項目から流動項目への振り替えを主な要因として、流動負債は前連結会計年度末に比べ74百万円増加し、1,625百万円となりました。また、長期借入金および社債の流動項目への振り替えを主な要因として、固定負債は前連結会計年度末に比べ233百万円減少し、596百万円となりました。純資産の部は、前連結会計年度末に比べ56百万円減少し、1,748百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純損失の計上と期末配当金の支払いによるものであります。

指 標	第70期 2021年3月期	第71期 2022年3月期
自己資本比率	43.1%	44.0%
1株当たり純資産	477円74銭	462円78銭

連結経営成績の概況

連結損益及び包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	第70期	第71期
	2020年4月1日から 2021年3月31日現在	2021年4月1日から 2022年3月31日現在
総売上高	6,271	6,672
収益	—	1,938
売上原価	5,003	486
売上総利益	1,268	1,451
販売費及び一般管理費	1,401	1,392
営業利益又は営業損失(△)	△132	59
営業外収益	83	52
営業外費用	34	36
経常利益又は経常損失(△)	△83	75
特別利益	—	9
特別損失	2	71
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△86	3
法人税、住民税及び事業税	25	25
法人税等調整額	△32	3
当期純損失(△)	△79	△25
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△79	△25
その他の包括利益	26	△16
包括利益	△52	△41

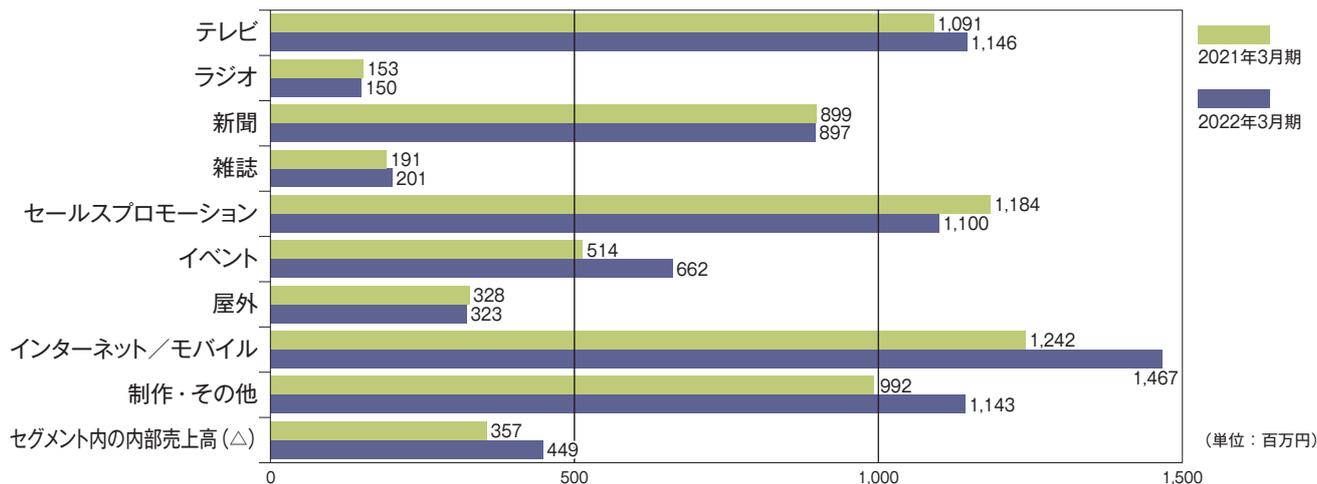
※収益は、第71期から適用となった「収益認識に関する会計基準」に準拠し算出した収益の総額

当連結会計年度におきましては、インターネット広告を中心としたデジタルマーケティング関連の受注の増加や、新店舗や新展示場のオープンに関連した受注があり、また、秋以降から年末にかけて新規感染者数の減少を背景に経済活動再開の動きが見られる状況となり、旅行・レジャー業などにおきまして広告出稿の回復があったほか、衆院選に関連した広告を受注いたしました。これらのほか、年度末に向けて官公庁受託案件の計上があり、当社グループの2022年3月期通期の総売上高につきましては6,672百万円（前期比106.4%）、収益は1,938百万円となりました。

利益面につきましては、個々の受注案件の利益率向上に取り組んだ結果、売上総利益率が1.5ポイント改善し、売上総利益は1,451百万円（前期比114.4%）となり、営業利益は59百万円（前期は132百万円の営業損失）、経常利益は75百万円（前期は83百万円の経常損失）となりました。また、収益性の低下が見られた一部の事業用資産に関して減損損失67百万円を特別損失に計上した結果、税金等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純損失は25百万円（前期は79百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

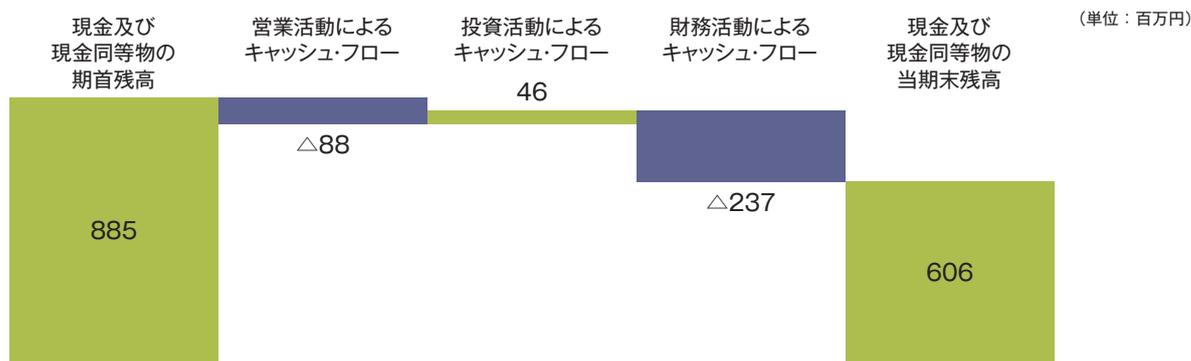
指 標	第70期 2021年3月期	第71期 2022年3月期
自己資本当期純利益率	△4.3%	△1.4%
総資産経常利益率	△2.0%	1.9%
1株当たり当期純利益	△20円92銭	△6円68銭

広告事業区分別販売実績



連結キャッシュ・フローの概況

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 第71期 2021年4月1日～2022年3月31日



当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ278百万円減少し、606百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー	営業活動の結果、使用した資金は88百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益3百万円、売上債権の増加額231百万円、仕入債務の増加額35百万円、減損損失の計上67百万円および法人税等の支払額16百万円によるものであります。
投資活動によるキャッシュ・フロー	投資活動の結果、得られた資金は46百万円となりました。これは主に保険積立金の解約による収入28百万円および投資不動産の賃貸による収入43百万円によるものであります。
財務活動によるキャッシュ・フロー	財務活動の結果、使用した資金は237百万円となりました。これは主に短期借入金の減少204百万円および配当金の支払15百万円によるものであります。

今後の見通し

2020年度の国内広告業界の売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響が直撃したこともあって4年連続の減少となりましたが、2021年度は影響の緩和とコロナ禍で急速に拡大した各業界のデジタルシフトを背景に、インターネットやデジタル技術を活用した広告の成長が全体を牽引し底堅い伸びとなりました。

当社グループにおきましては、「お客さまが達成したい目標を設計し実現するパートナーになること」を今後の当社グループの在り方と定義し、これを『マーケティングデザイン』と称して日々の営業活動の基本概念としております。そして、コロナ禍も相まった厳しい経営環境を乗り越えていくためには、「既存事業の収益改善」と「新しい事業領域の開発」に取り組むことが不可欠であると考えております。また、私たちの提供するサービスは行政や地域に対しても広がります。地域課題から社会的価値を構築し、実現させていくことも当社グループの活動領域であり、企業理念が示すように、「顧客課題を提案活動によって解決し、地域の皆様とともに豊かな文化を育て、社会をより楽しく、より美しく、より豊かにすること」が当社グループの使命であると考えております。これらの実現に向け、当社グループにおきましては、「①デジタル領域への挑戦、②新規事業への挑戦、③クリエイティブスタッフの高付加価値化、④課題解決型営業の推進、⑤人材への投資」に取り組んでまいります。

以上の施策を講じてまいります。当社グループの商勢圏におきましては、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せず、影響額を現時点で合理的に算定することが困難であることから、次期連結会計年度（2023年3月期）の当社グループ通期の業績につきましては「未定」としてしております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた業績予想の見通しが合理的に予測可能となり次第改めて速やかに公表いたします。

コロナ禍のいまこそ地域の魅力を全国や世界に発信し、地域を活性化させる

コロナ禍で苦境にたたされた和菓子屋の若き経営者たちを救え！

コロナ禍で厳しい状況下にある和菓子業界を盛り上げるべく、岡山県の和菓子屋11店舗で構成される岡山県菓子工業組合青年部様からの強いご指名により、『おかやま 花より餡子めぐり』と題した和菓子のプロモーションを実施しました。

プロモーション活動として各店舗をめぐるスタンプラリーを実施。ポスター、チラシをはじめ、インスタでの恋愛物語の投稿やメイキング動画のyoutube投稿などのクロスメディア広告を展開し、さらなる和菓子の認知拡大を図りました。

ご当地アイドルの起用も作用し、twitterを中心に SNS上で多くの反響があり、地元メディアやYahoo!ニュースなどでも大きく取り上げられたこのプロモーションは、認知拡大に加えて、日ごろ和菓子離れした人たちや新規ファンの獲得など、和菓子店と地元の人たちとのふれあいを再構築し、地域の活性化を図ることができました。



※ポスター、チラシ、スタンプカード、インスタやメイキング動画などの制作において、タイトルロゴ、ヘッドコピー、デザイン、撮影、ディレクションなどのすべてに当社社員が深く関わることで、『おかやま 花より餡子めぐり』という統一した世界観を繰り広げることができました。

コロナ禍後を見据えたインバウンド観光向けのWeb動画配信

世界的なコロナウイルス感染症拡大により日本国内の観光客の減少が続いているなか、中国運輸局様の企画競争入札受注による感染症拡大の終息後のインバウンド需要を想定した中国地方への訪日観光促進を図るための動画コンテンツの制作とWeb配信をおこないました。

動画は、台湾、香港、中国、タイ、シンガポール及び欧米豪エリアのインバウンド富裕層をターゲットとし、中国地方での特別な体験や癒しを訴求し観光資源の認知度を向上させることで中国地方への誘客促進を図る映像を制作。その結果、目標を大きく上回る表示回数となり、訪日観光エリアとして中国地方の認知度向上が図られました。

◎「ジバング古の神々を感じる旅」篇



◎「ネイティブアクティビティで癒しの旅」篇



※動画は、上段のソフト面（精神性や内面）での癒しと体験の旅を提案する「ジバング古の神々を感じる旅」篇と、下段のハード面（肉体的健康志向やネイティブ体験面）での癒しの旅の提案「ネイティブアクティビティで癒しの旅」篇があり、インバウンド観光客を意識した海外風の色彩や映像美にこだわった動画となっています。

株式データ

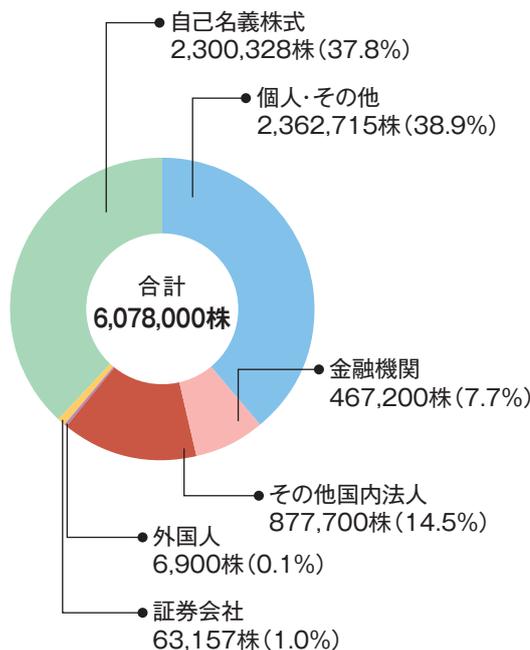
株主の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	16,000,000株
発行済株式の総数	6,078,000株
単元株式数	100株
株主数	946名

大株主の状況 (2022年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
セーラー広告株式会社	2,300,328	37.84
セーラー広告取引先持株会	533,500	8.77
セーラーグループ社員持株会	456,700	7.51
株式会社香川銀行	180,000	2.96
株式会社讀宣姫路	160,000	2.63
村上 義憲	145,900	2.40
工藤 信仁	142,000	2.33
東京海上日動火災保険株式会社	100,000	1.64
株式会社百十四銀行	100,000	1.64
株式会社中広	99,500	1.63

株主構成 (2022年3月31日現在)



株主還元

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置付け、安定した配当を継続して実施することを基本とし、設備投資や販売強化等に関する資金需要の状況、業績の動向、ならびに内部留保の充実等を総合的に検討したうえで配当額を決定しております。当方針のもと、期末配当金につきましては、当期の業績動向や依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないことに伴う財務リスク等を総合的に勘案した結果、以下に記載のとおり1株当たり4円とさせていただきます。なお、次年度の配当金につきましては、業績予想の「未定」を受け、現段階では「未定」とし、業績予想が可能となった段階で配当予想を速やかに公表いたします。

配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00	15	—	0.8
2022年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00	15	—	0.9
2023年3月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会・期末配当：3月31日
中間配当：9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)

公告方法 電子公告とし、当社ホームページ
(<https://www.saylor.co.jp/>) に掲載いたします。
ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場取引所 東京証券取引所 (スタンダード市場)

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

会社データ

■会社概要 (2022年6月24日現在)

商号	セーラー広告株式会社
本店所在地	香川県高松市扇町二丁目7番20号
設立	昭和26年3月
資本金	294,868,750円
従業員数	220名(連結)
建設業許可	香川県知事(般-29)第6088号
警備業許可	香川県公安委員会第154号

■業務内容 (2022年6月24日現在)

広告出稿業務
広告媒体制作
広告制作業務
マーケティング・プランニング
セールスプロモーション・プランニング
イベント・展示会の企画、運営、管理
CIプランニング
セレモニーの企画、運営、管理
インターネット関連の企画、運営

■役員の状況 (2022年6月24日現在)

代表取締役社長	村上 義憲
取締役CIO	間 敬三
常務取締役	萱原 一則
取締役	森川 稔
取締役	高藤 聖二
常勤監査等委員	原渕 定夫
監査等委員	田辺 真由美
監査等委員	福川 盛二

■ネットワーク (2022年6月24日現在)

▶拠点	
高松本社	香川県高松市扇町二丁目7番20号
愛媛本社	愛媛県松山市北斎院町637番地6
岡山本社	岡山県岡山市北区東古松南町6番地29
徳島支社	徳島県徳島市新南福島一丁目4番6号
広島支社	広島県広島市中区橋本町9番7号 ビル博文7F
倉敷支社	岡山県倉敷市白楽町249番地の5 倉敷商工会館4F
西讃支社	香川県丸亀市土器町東八丁目466 富士ビル2F
東予支社	愛媛県新居浜市一宮町一丁目5番50号 新居浜ビル4F
東京支社	東京都港区虎ノ門五丁目12番8号 クローバー神谷町4F

▶関係会社 (全て連結対象)

- 株式会社あわわ／徳島県徳島市南末広町2番95号
(タウン情報誌出版、雑誌広告、建てようネット、PRツール、ホームページ制作 ほか)
- アド・セイル株式会社／香川県高松市本町10番26号
(インターネットを利用したマーケティング 戦略的Webサイト企画制作・運営 国内向けECサイト企画制作・運営代行)
- 株式会社ゴング／福岡県福岡市中央区薬院一丁目6番9号
福岡ニッセイビル5F
(広告企画・制作、マーケティング、プロモーションプランニング ほか)
- 南放セーラー広告株式会社／高知県高知市北本町一丁目10番28号
(広告出稿、広告媒体制作、広告制作、マーケティング、セールスプロモーション、イベント ほか)
- 株式会社エイ・アンド・バイ／愛媛県松山市鴨川二丁目17番33号
(住宅展示場の運営、小規模地域密着型通所介護事業)
- 株式会社 FISH／香川県高松市丸亀町3番地13 丸亀町参番街西館2F
(マーケティング領域のコンサルティング、事業開発/プロダクト開発、ブランディング 広告コミュニケーション、施設・店舗プロデュース、デジタルコミュニケーション、地域課題解決)



セーラー広告株式会社

高松本社／香川県高松市扇町二丁目7番20号 Tel.087-825-1156 Fax.087-825-1151
ネットワーク／高松・松山・岡山・徳島・広島・倉敷・丸亀・新居浜・東京

<https://www.saylor.co.jp>

セーラー広告

検索